

事務事業名	7690 放課後子ども教室事業													
担当組織	こども健やか部					児童青少年課					担当	放課後こども担当		
組織コード	R3	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	10	04	03	01	01	記入日	令和 3年 6月15日
	R2	18	06	00		R2	01	10	04	03	01	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										○ 対象 ● 対象外	
分野	02	児童・青少年育成											
施策	05	児童・青少年の健全育成											
事業期間	平成19年度～												
根拠法令 通達等	埼玉県放課後子供教室推進事業補助金交付要綱					関連計画 施政方針	戸田市子ども・子育て支援事業計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	実施小学校区内の小学生												
事業目的	子どもたちの安全で安心な活動拠点（居場所）を設け地域の大人の協力を得て、スポーツ・文化活動・地域の皆さんとの交流活動等の取組を実施する。												
事業内容	放課後や週末等に小学校の余裕教室・校庭・体育館等を活用して様々な事業を実施する。（実施校：芦原、美谷本、新曾、喜沢、笹目、戸田東、戸田第一、新曾北、戸田南、笹目東小、美女木小、戸田第二）												
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

		令和2年度 執行額(千円)	令和3年度 予算額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	令和6年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	戸田市放課後子ども教室事業の支援	戸田市放課後子ども教室事業の支援	戸田市放課後子ども教室事業の支援	戸田市放課後子ども教室事業の支援	戸田市放課後子ども教室事業の支援	
	事業費	1,100	7,624	9,649	9,649	9,649	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	112	4,481	4,849	4,849	4,849
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	777	777	777
		一般財源	988	3,143	4,023	4,023	4,023
	人件費	5,885.4	5,885.4	5,885.4	5,885.4	5,885.4	
	投入 人員	常勤職員	0.85人	0.85人	0.85人	0.85人	0.85人
		非常勤職員	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人
事業費+人件費		6,985	13,509	15,534	15,534	15,534	

目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動①	実施小学校数		校		12	12
活動②					11	0	—
成果①	参加児童数		人		12,000	6,000	600
成果②	登録児童数		人		8,631	0	—
					1,100	550	600
					906	0	—

目標達成状況の分析

C：活動・成果ともに達成できなかった。

<判断理由>
放課後こども教室については、コロナ禍により年間を通じて中止となったため、目標を達成することができなかった。また、令和3年度についてもコロナ禍による利用制限（1校1回のみ、50人程度）を行う予定であり、参加児童数及び登録児童数の目標値は、12校分で600人とした。なお、今後の感染状況により、実施予定が大幅に変更となる可能性がある。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 令和2年度はコロナ禍により事業を実施できなかったが、コーディネーター等スタッフ会議において、今後の事業のあり方について協議できたので、施策の目標達成に貢献していると判定した。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	コロナ禍の中、スタッフ及び児童の安心安全を考慮し年間を通じて中止としたが、スタッフの三密を避けた会議において、今後の事業の在り方の検討を行うことができた。
見直しの効果	令和2年度はコロナ禍の中で事業を中止することで児童やスタッフの安全を確保したが、放課後子ども教室を楽しむにしたい児童や保護者の期待に沿えない面もあった。コーディネーター等スタッフの会議において、令和3年度における事業のあり方について検討し、スタッフの人材確保の推進及び令和3年度下半期より感染防止対策を行いつつ事業の実施を目指すこととなった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了
	<判断理由> これまでの児童数増加に伴う余裕教室の減少により、放課後子ども教室の開催場所が不足する傾向にある。校舎改修工事等が実施される学校においては、開催場所が制限され、一定期間開催中止を余儀なくされる。また、事業立ち上げ当初から本事業に携わっているスタッフも多いため、新たな担い手の確保を図っていかないと中長期的にみて事業の継続が難しくなってくる。事業の拡充を進めていきたいところだが、開催場所の確保や、スタッフなど人材の確保、新たにコロナ禍が加わった形で課題となっているため、事業を継続していくためにこの課題への対応を進めるとともに、有意義な放課後の居場所として開催内容の充実についても併せて取り組んでいきたい。
今後の取組方針	地域の潜在的な人材や保護者世代のスタッフ確保を図るため、引き続き民生委員・児童委員協議会や公立学校PTA連合会に対し、事業への協力を進めていきたい。開催場所については、特に校舎改修工事等が実施される学校においては、工事計画段階から学校や関係部局と継続して事業が実施できるよう調整してまいりたい。また、開催内容の充実を図るため、各小学校で好評な遊びや活動内容について、他校のスタッフでも情報を共有していく。また、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、感染防止対策を行った上で、令和3年度の下半期に事業を開催できるよう進めてまいりたい。

事務事業名	7440 青少年健全育成事業													
担当組織	こども健やか部				児童青少年課					担当	青少年担当			
組織コード	R3	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	10	04	03	01	02	記入日	令和 3年 6月15日
	R2	18	06	00		R2	01	10	04	03	01	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	02	児童・青少年育成									● 対象外		
施策	05	児童・青少年の健全育成											
事業期間	昭和50年度～												
根拠法令 通達等	戸田市社会教育関係団体等事業補助金交付要綱 埼玉県青少年健全育成条例、各団体別補助金等交付 要綱、「成人の日」の行事について《文部事務次官 通達》、社会教育法、子ども・若者育成支援推進法					関連計画 施政方針							
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	市内在住の青少年 当年20歳になった人												
事業目的	青少年の健全育成と非行防止のための活動の充実を図り、青少年が社会的に自立した個人として成長するよう支援する。 青少年に対しボランティア活動などの社会奉仕体験、自然体験その他の活動の機会を提供する事業の実施及び奨励を図る。												
事業内容	青少年に対する各種啓発事業や地域の巡回補導を実施し、青少年健全育成及び非行防止を図る。 各青少年団体に対する活動支援の実施、補助金の交付、成人式・はたちの集いの実施												
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (青少年団体等)												

2. 実施結果

事業内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)		
事業内容	青少年育成補 導事業等 成人式	青少年育成補 導事業等・成 人式・青少年 祭り・リーダー	青少年育成補 導事業等・成 人式・青少年 祭り・リーダー	青少年育成補 導事業等・成 人式・青少年 祭り・リーダー	青少年育成補 導事業等・成 人式・青少年 祭り・リーダー		
事業費	4,501	12,978	12,502	12,502	12,502		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0		
	その他	0	3	3	3		
	一般財源	4,501	12,975	12,499	12,499		
人件費	15,786.72	10,386	15,786.72	15,786.72	15,786.72		
投入人員	常勤職員	2.28人	1.5人	2.28人	2.28人		
	非常勤職員	0.02人	0.1人	0.1人	0.1人		
事業費+人件費	20,288	23,364	28,289	28,289	28,289		
目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動①	巡回補導実施回数	回	補導員活動状況	170	85	42
	活動②	青少年健全育成大会等及びキャン ペーン実施回数	回	健全育成大会、健全育成 キャンペーン等	94	30	—
	成果①	巡回補導延べ参加補導員延べ人数	人	補導員活動実績	3	2	1
	成果②				3	0	—
					500	250	125
目標達成 状況 の分析	C：活動・成果ともに達成できなかった。 <判断理由> 全ての指標で目標値に達しなかった。主な要因は、新型コロナウイルス感染防止のため、活動を自粛したことによる。 また、令和3年度も新型コロナウイルスによる活動の制限があるため、目標値は概ね前年度よりも低い値(50%)を設定した。 令和3年度より、青少年教育事業を統合して実施していく。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	A	A	B	<判断理由> 令和2年度はコロナ禍により事業を実施できないものもあったが、コロナ禍に対応できるよう新しい様式であるオンライン成人式を安心・安全に開催することができたため、施策の目標達成に貢献しているものとした。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	成人式については、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて実施状況を変更する形を取り、最終的にオンライン開催となった。
見直しの効果	令和3年1月上旬に第3波の新型コロナウイルスの感染拡大がピークを迎えた。会場開催成人の日のイベントを中止し、オンライン成人式を開催とすることで新成人及び関連する市民の安心安全が図られた。新成人は約1500人であったが、オンラインの成人式動画では3000回を超える動画再生があった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input checked="" type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了
	<判断理由> 青少年の健全育成事業については、新型コロナウイルスの感染拡大への対応や、共働き家庭の増加などによる地域事業への市民参加の困難さなどで各事業の実績は各事業の目標値を下回っているが、今後も状況に応じて対応しつつ、根本的な事業の見直しを図りながら、青少年の健全育成の各事業を実施していく。なお、令和3年度より、青少年教育事業（青少年祭り、リーダー研修会、通学合宿等）を青少年健全育成事業に統合している。
今後の取組方針	青少年の健全育成事業については、携帯電話の普及や青少年の行動様式の変化、また、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮しつつ実施していかなければならない。こうした新たな問題については戸田市青少年問題協議会等で審議していく。また、市民に大きな負担となるような事業は今後整理していく必要がある。

事務事業名	7244 青少年教育事業													
担当組織	こども健やか部					児童青少年課					担当	青少年担当		
組織コード	R3	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	10	04	03	01	94	記入日	令和 3年 6月15日
	R2	18	06	00		R2	01	10	04	03	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	02	児童・青少年育成									● 対象外		
施策	05	児童・青少年の健全育成											
事業期間	～ 令和2年度												
根拠法令 通達等	社会教育法、子ども・若者育成支援推進法					関連計画 施政方針	子ども・子育て支援事業計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	市内在住の青少年												
事業目的	青少年に対しボランティア活動などの社会奉仕体験、自然体験その他の活動の機会を提供する事業の実施及び奨励を図る。												
事業内容	青少年団体の活動支援として、青少年祭り、通学合宿、三市青少年の船研修等の事業実施を支援する。												
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (青少年団体等)												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和2年度 執行額(千円)	令和3年度 予算額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	令和6年度 計画額(千円)	
	事業内容		青少年祭り、 リーダー研修 会等	青少年祭り、 リーダー研修 会等	青少年祭り、 リーダー研修 会等	青少年祭り、 リーダー研修 会等	青少年祭り、 リーダー研修 会等	
	事業費		2,790	0	0	0	0	
	財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	2,790	0	0	0	0	
	人件費		8,101.08	0	0	0	0	
	投入 人員	常勤職員	1.17人	0人	0人	0人	0人	
非常勤職員		0.08人	0人	0人	0人	0人		
事業費+人件費		10,891	0	0	0	0		
目標 達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動 ①	体験活動事業件数		青少年祭り、通学合宿、 リーダー研修、三市の船	7	4	2	
					6	0	-	
	成果 ①	リーダー研修会参加者数	人	参加人数	65	33	16	
					70	0	-	
	成果 ②	通学合宿参加者数	人	参加人数	72	36	18	
48					0	-		
目標達成 状況 の分析	C：活動・成果ともに達成できなかった。 <判断理由> 令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止という外的要因により、青少年祭り、通学合宿、リーダー研修、郷土かるた、三市の船が中止となり、目標を達成することが出来なかった。令和3年度も新型コロナウイルスによる活動の制限があり、まん延防止対策もあるため、目標値は前年度よりも低い(50%)値とした。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	A	A	B	<判断理由> 令和2年度はコロナ禍により事業を実施できなかったが、書面会議や三密を避けた会議により、今後の事業の在り方について検討したので、施策の目標達成に貢献しているものとした。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、三市の船や郷土かるた大会等を中止とした。今後の事業実施について感染症対策の重要性を認識し、感染防止のための対応を柔軟に行っていくこととした。
見直しの効果	新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、会議は主に書面で行い、青少年の活動事業の多くを中止とした。参加予定者の安全第一に各事業の中止等が図られたが、青少年の活動の場が縮小した面もある。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input checked="" type="radio"/> 令和2年度で終了
	<判断理由> 各事業については、各青少年団体が自主的に活動できるよう引き続き支援を行っていく。ただし、新型コロナの影響や、児童の習い事など民間運営事業へのシフト傾向から、縮小傾向は避けられないが、無駄を省きつつも効果のある事業を実施していく。 なお、令和3年度より、青少年教育事業（青少年祭り、リーダー研修会、通学合宿等）は青少年健全育成事業に統合して実施していく。
今後の取組方針	各青少年団体が自主的に活動できるよう支援するとともに、団体と協力して、子どもたちが各事業に積極的に参加できるよう周知を強化し、青少年の健全育成を行っていく。各事業におけるボランティアスタッフが不足していることから、ボランティアスタッフの確保について、調整を図っていく。 また、令和3年度より、青少年健全育成事業に統合して実施していくとともに、新型コロナ対策を行いつつ、三密を避けた事業のあり方を検討してまいりたい。